

第25回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成25年1月

応募者名：徳島県 県土整備部東部県土整備局

事業の名称：徳島東部都市計画道路

徳島東環状線

阿波しらさぎ大橋整備事業

実施都市名：徳島県徳島市

事業目的

徳島東環状線は、徳島市中心部及び周辺部で慢性化している交通渋滞を緩和するため、徳島県と国土交通省が分担して整備を進めている徳島外環状道路（L≒35km）の東側を形成し、一般国道11号、55号のバイパス機能を持った延長10.4kmの都市計画道路です。

この徳島東環状線の中心的役割を担い、一級河川吉野川を渡河する橋長1,291mの長大橋が「阿波しらさぎ大橋」です。架橋位置周辺には貴重な底生生物や野鳥が生息する干潟があることから、設計・施工においては環境に配慮し、干潟の環境や飛来する野鳥への影響を極力少なくする取り組みを行っています。

事業概要

事業名称: 阿波しらさぎ大橋整備事業

路線名: 徳島東部都市計画道路 徳島東環状線

事業箇所: 徳島県徳島市住吉6丁目～徳島市川内町鶴島

事業延長: 1,291m

幅員: 25.5～31.5m

事業費: 約304億円

事業実施期間: 平成12年度～平成23年度

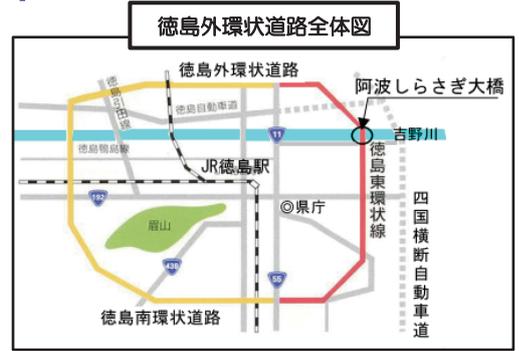
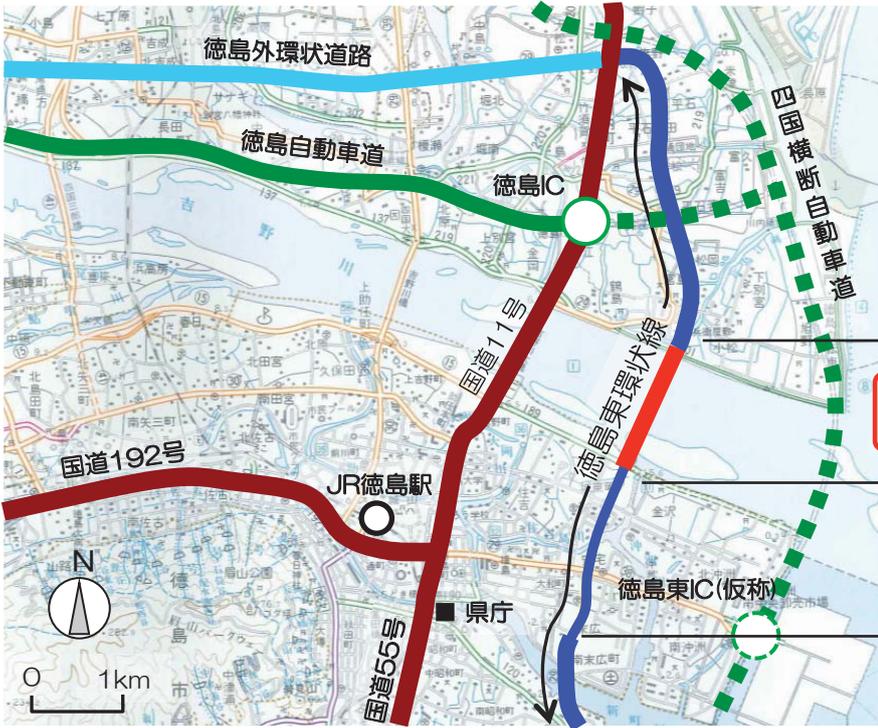
本事業は、一級河川吉野川を渡河する「阿波しらさぎ大橋」（橋長1,291m）を整備したものです。架橋位置である吉野川河口域には広大な干潟があり、シオマネキをはじめ貴重な生物が生息しており、シギ・チドリ類など渡り鳥の中継地・集団越冬地としても知られるなど、豊かな自然が残っています。

このため、橋の設計に当たっては、干潟への影響ができるだけ少なくなるよう、干潟に橋脚を建てず、鳥類の飛翔に配慮して主塔高さを抑えるとともに、並列ケーブルによりケーブル段数を1段とした、世界に類をみない「ケーブルイグレット形式」を採用しています。

また、照明には周辺への光の漏れが少ない「LED歩道高欄内照明」を採用したほか、主塔付きを除く橋脚の基礎形式には、多径間連続ラーメン構造に適し、河川内掘削が発生しない「立上り方式鋼管矢板井筒基礎」を採用するなど河川環境に配慮しています。

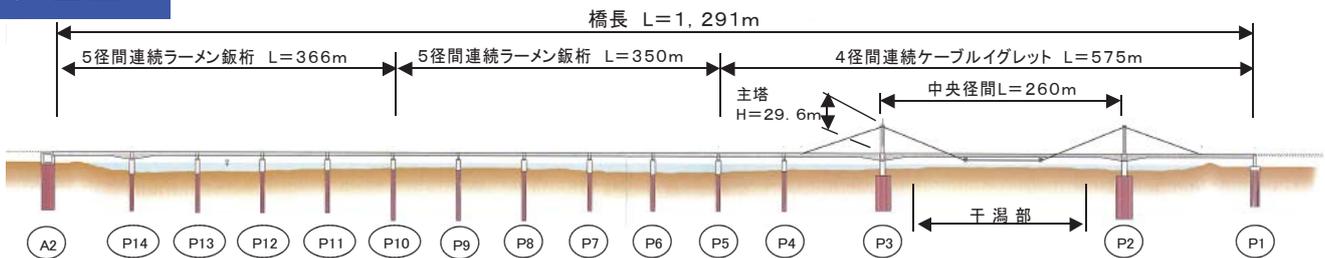
さらに施工時においても河川内に栈橋等を設けないよう、台船やトラベラークレーンを使用するなど、環境に配慮した工法を採用しています。

事業位置図

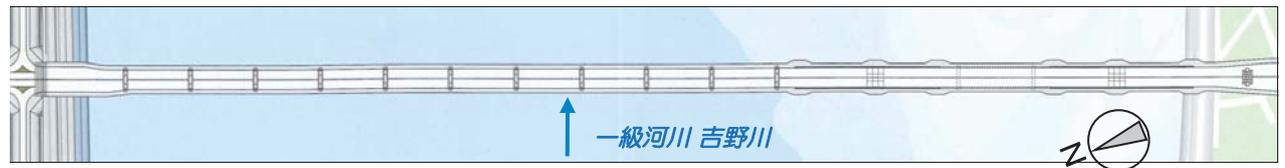


全体図(平面図・側面図・横断面図)

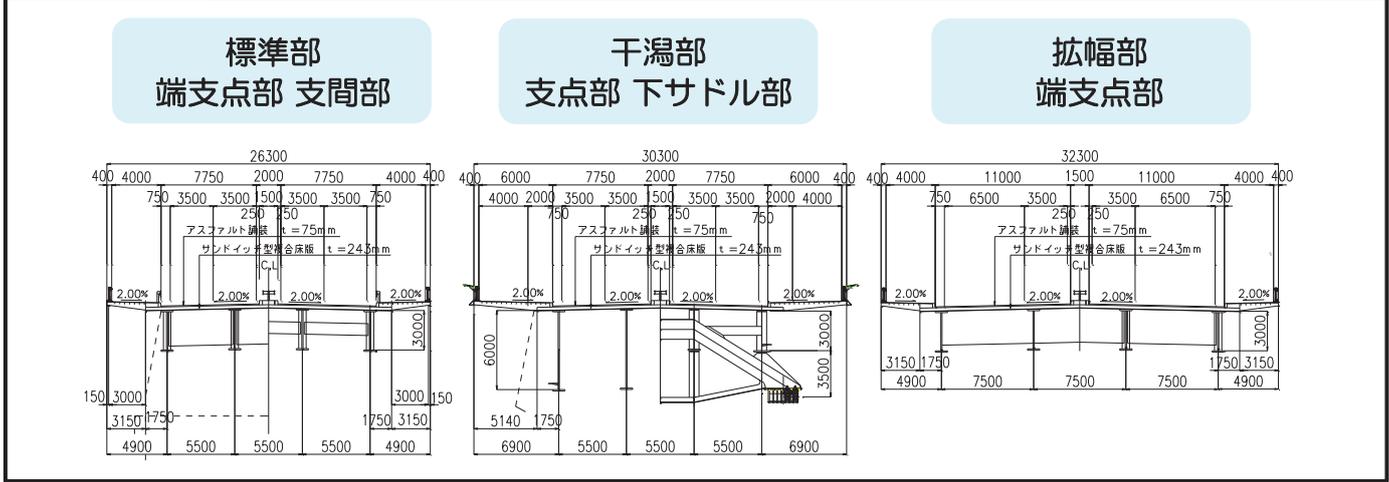
側面図



平面図



横断面図



阿波しらさぎ大橋の整備効果アピール資料

事業概要

事業名：阿波しらさぎ大橋整備事業
 路線名：都市計画道路 徳島東環状線
 事業箇所：徳島市住吉6丁目～川内町鶴島
 事業延長：1,291m
 幅員：25.5～31.5m
 総事業費：約304億円
 事業期間：平成12年度～平成23年度

開通による交通量の変化

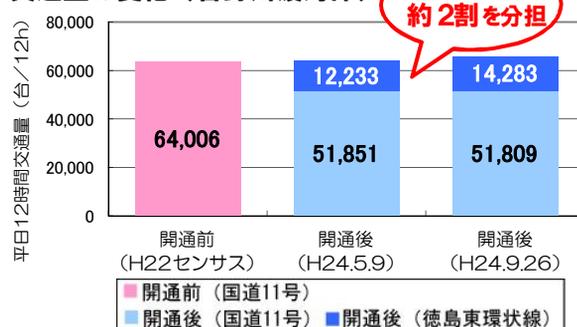
開通前：平成22年道路交通センサス
 開通後：平成24年9月26日

- 阿波しらさぎ大橋 14,283台
- 吉野川大橋（国道11号）
64,006台 → 51,809台【12,197台減】

→ 並行する吉野川大橋（国道11号）の交通量が「2割」減少!! 渋滞緩和に効果を発揮



交通量の変化（吉野川渡河部）



大松～安宅の所要時間の変化



緊急輸送道路・避難場所

徳島東環状線は緊急輸送道路に、また阿波しらさぎ大橋歩道部分は津波の一時避難場所に指定されており、南海トラフの巨大地震等大規模災害に備え、防災機能の向上が図られている。



健康増進の場としての活用

阿波しらさぎ大橋はウォーキングやジョギングのコースとして人気があり、糖尿病死亡率が全国ワースト1位である本県県民の健康増進の場として活用されている。



環境への配慮

環境配慮においては、ケーブルイグレット形式採用のほか、周辺への光の漏れが少ないLED歩道高欄内照明を採用するなど、生物の生息環境に配慮している。

なお橋が干渉の環境に与える影響については、軽微であると判断している（鳥類はH25まで調査継続中）。



事業前写真



事業後写真

平成24年6月撮影

阿波しらさぎ大橋の右岸側では、本線となる高架道路が整備中であり、現在、側道タッチによる暫定供用となっている。このため、開通直後は交通が集中し、渋滞が発生したが、現在は落ち着きを見せており、上流側を並走する国道11号吉野川大橋の渋滞緩和に効果を発揮している。また自歩道はウォーキングやジョギングを楽しむ人々の姿が多く観られ、健康増進の場としても活用されている。

